

福井県立若狭図書学習センター1/2

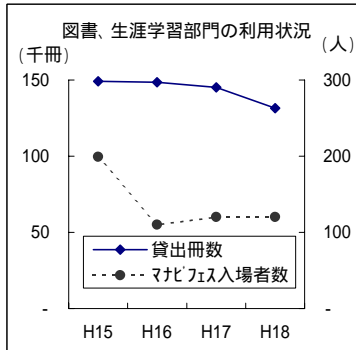
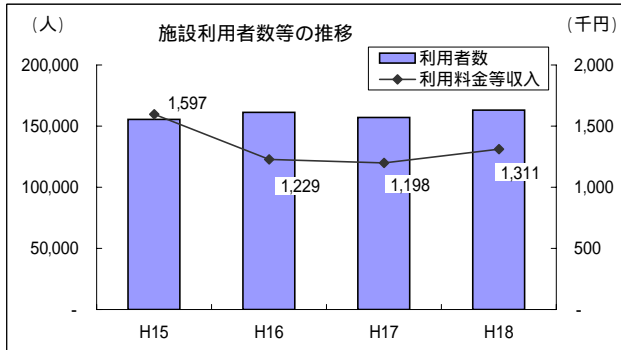
若狭図書学習センターは、
より良い学びの場を提供します

所在地	小浜市南川町6-11		
設置年月日	平成元年6月2日(平成7年10月1日改称)		
施設の種類	図書館・生涯学習センター	施設管理主体	県
設置の目的	図書館機能と生涯学習センター機能を備えた複合施設で、図書や資料を有効に活用し、学習し、表現し、交流する場やそのために必要な学習情報を提供し、県民一人ひとりの生涯学習の充実を目指す。		
概要 (構造、面積、主な機能)	鉄筋コンクリート造2階建て・延床面積4,697.99㎡ 図書部門：蔵書27万冊(開架7.5万冊、書庫19.5万冊)		
職員数	職員9人 アルバイト3人 計12人		

利用状況等

	H15	H16	H17	H18
利用者数(人)	155,441	161,379	156,986	163,070
個人貸出冊数(冊)	149,200	148,613	145,146	131,462
マナビ・フェスティバル入場者数(人)	199	110	120	120

記念講演会入場者数



利用者負担(利用料金)等

多目的ホール、研修室等の使用に当たっては、条例に規定されている使用料を徴収します。

施設HP参照

利用状況の推移

利用者数は隔年で増減を繰り返していますが、平成18年度は前年度比3.9%増加しました。

【図書部門】
個人貸出冊数は減少傾向にありますが、18年度は前年度比9.4%減と減少幅が大きくなりました。これは隣接する旧上中地区にバリア若狭図書館が開館したことが大きな要因と考えられます。
(参考)若狭町民への貸出冊数：前年比62.6%

【生涯学習部門】
マナビ・フェスティバルの入場者は増加傾向にあり、18年度も前年度比2.5%増加しました。
主催事業「わくわく子どもシアター」「おはなし会」の回数を増やしましたが、参加者数は前年度に比べて減少しました。

施設の特徴

さまざまなジャンルの蔵書を有しており、生涯学習の拠点施設として、多様化、高度化する県民の学習ニーズに応えています。

【図書部門】

嶺南地域の公共図書館の中心的な存在として、市町立図書館を通じた所蔵資料の貸出の他、レファレンスや複写サービス、また図書館訪問などを実施しています。

福井県、特に嶺南地域に関する資料の収集・保存にも取り組んでおり、同地域の歴史、文化、経済等の情報を広く県民に提供し、利用されています。

【生涯学習部門】

福井ライフ・アカデミー講座の充実の他、おはなし会などの子ども向け行事の開催を通じて、子どもの読書活動の推進を図っています。



図書部門の利用者サービス

・レファレンスサービス(調査・相談)

図書館司書が、調べ物に必要な資料や情報を紹介したり、資料を探す手伝いをします。

・リクエスト、相互貸借

利用者が求める資料を、購入したり、県内外の図書館から借りて、提供します。

・インターネット予約サービス

インターネットで、若狭図書学習センターの資料を予約することができます。

・遠隔地利用者返却サービス

若狭図書学習センターで借りた資料を、近くの市町立図書館で返却できます。

若狭図書学習センターホームページ

<http://www.hokuriku.ne.jp/wakuwaku/>

平成18年度の特徴について

ゴールデンウィークの全日および夏休み期間中の月曜日を臨時開館するなど、県民の利便性の向上を図りました。

【図書部門】
センターだより「若狭路」やホームページへの掲載を通して、積極的にセンターの活動内容をアピールしています。
小学校等の体験学習や総合学習での利用を積極的に受け入れました。

郷土の先覚者の気概を知っていただくため特別展「杉田玄白と解体新書」を開催しました。
(閲覧者：10,108人・含県立図書館)
話題となった国内外のテーマに関する資料の展示や、郷土資料を新たな視点で紹介する展示を行うなど、各種企画展の充実を図りました。

なお、平成18年度は、10,712冊の図書を購入しました。(決算額：24,213千円)

【生涯学習部門】

福井ライフ・アカデミー事業を開催しました。
特に「生涯学習ボランティア養成講座」や「郷土学習講座」「現代的課題講座」は高い受講率となりました。
(全9事業・58コマ)

主催事業の「わくわく子どもシアター」「おはなし会」では、親子連れを中心に約500名の参加者がありました。

福井県立若狭図書学習センター 2 / 2

行政コスト計算書(平成18年度) (単位:千円)

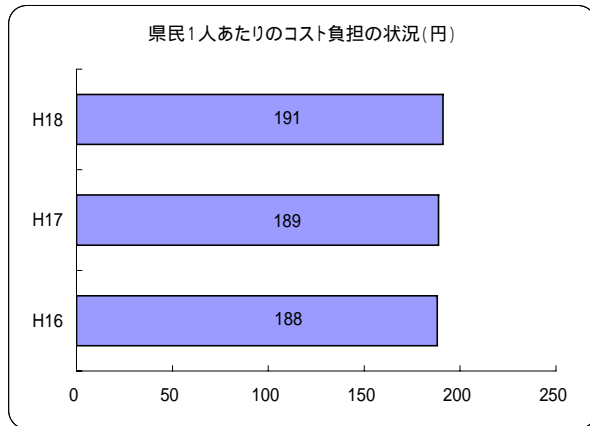
		総額	構成比	前年比
人にかかるコスト	人件費	89,613	56.8%	103.1%
	退職給与引当金繰入	585	0.4%	215.9%
	計	90,198	57.2%	103.4%
物にかかるコスト	物件費	52,002	33.0%	98.7%
	維持補修費	1,461	0.9%	64.2%
	減価償却費	13,946	8.9%	100.0%
	計	67,409	42.8%	97.8%
その他	公債費(利子)	0	0.0%	-
	その他	74	0.0%	100.0%
	計	74	0.0%	100.0%
合計		157,681	100.0%	101.0%
収入	利用料等収入	1,311	0.8%	109.4%
	その他収入	32	0.0%	114.3%
	一般財源	156,338	99.2%	100.9%

バランスシート(平成19年3月31日現在) (単位:千円)

借方			貸方		
資産	前年比		負債	前年比	
有形固定資産	991,278	98.6%	固定負債	71,595	100.8%
うち土地	521,491	100.0%	うち退職手当引当金	71,595	100.8%
うち建物	456,206	97.1%			
投資等	0	-	流動負債	0	-
流動資産	0	-	正味資産	919,683	98.4%
計	991,278	98.6%	計	991,278	98.6%

主な指標 (単位:%、円/人)

	H18	H17	前年比
県民1人あたり有形固定資産額	1,211	1,224	98.9%
県民1人あたり将来負担額	87	86	101.2%
世代間負担率	92.8	92.9	99.9%



バランスシート、行政コスト計算書の特徴	<p>図書館の司書や生涯学習講座を実施しているため、人にかかるコストの割合が高くなっています。なお、行政コストは、前年度比1.0%の増加と、前年度とほぼ同額になっています。</p> <p>資産は、土地と建物でほぼ100%を占めますが、減価償却が進んでいないため、県民1人あたりの有形固定資産額は大きくなっています。一方、将来の財政負担要因となる負債は、施設の公債費償還が完了していることから、退職手当引当金のみとなっています。この結果、県民1人あたりの将来負担額は低い水準になっています。</p>
施設の目的上、管理運営上、主要な事業	<p>管理部門 施設の維持管理 【H19予算額:約29百万円】</p> <p>事業部門 資料整備事業 ... 図書等の購入 【H19予算額:約23百万円】</p>
今後の課題	<p>より一層の利用拡大を目指して、県民の要望に沿ったサービスの充実が必要です。市町立図書館ならびに生涯学習センターとの連携をさらに強化する必要があります。</p>
今後の事業方針 取り組み内容	<p>以下の取組みにより、サービスの充実を図ります。</p> <p>(図書部門) ・図書館での貸出実績や市町からの貸出要望の多い参考図書などを重点に整備します。 ・遠隔地利用者返却サービスをさらに広報し、市町立図書館を窓口にして県立図書館ならびに若狭図書学習センターの資料をより利用してもらうようにします。 ・郷土の先覚者の足跡を学習するため、歴史資料を活用した企画展を開催する等、市町立図書館等との協力も含め、貴重な資料の活用を図っていきます。 ・おはなし会、こども映画会等子ども向け行事の開催を通じて、より多くの子どもの来館を図り、読書活動の推進を図っていきます。</p> <p>(生涯学習部門) ・福井ライフ・アカデミーが主催する、県民の学習ニーズに対応した各種生涯学習講座を開催します。また、県民が生涯学習ボランティア講師(県民講師)として開設する「友愛塾」を支援していきます。</p>